

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	学びみらい課担当課長 坂本 卓	
教育-15	小学校運営事業	☒ 自治事務	主管課	教育総務課
		☐ 法定受託事務	関連課	学びみらい課
総合計画上の位置付け	分野	4-(3) 学校教育	施策の方針	4-(3)-②学校施設の管理・整備

1 事業の目的

対象	市立小学校の児童等
意図	安定した学校運営を支援するため。
効果	質の高い公教育の実施を図る。

2 令和6年(2024年)度に実施した事業の概要

・市立小学校5校(第一小学校、七里ガ浜小学校、小坂小学校、玉縄小学校及び今泉小学校)への校内フリースペースの整備
・校内フリースペース整備校へのまなびばサポーター(会計年度任用職員)の配置

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	校内フリースペースの整備	初度調弁(消耗品の調達)	校内フリースペースに通室する児童数	81 / 2,741	40 / 3,004	72 / 2,601	203.0%
02				/	/	/	
03				/	/	/	
04				/	/	/	
05				/	/	/	
06				/	/	/	
07				/	/	/	
08				/	/	/	
09				/	/	/	
10				/	/	/	
		財源内訳	国県支出金	606 /	0		
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	2,135 /	3,004		
		事業費の合計(千円)		2,741 /	3,004	0	
		人件費(千円)				3,933 / 4,269	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0	0	0	0	0.5	0.5
会計年度任用職員	0	0	0	0	0	0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	校内フリースペースの整備	校内フリースペースが自分のクラスにすることが辛いと感じている児童にとっての居場所として機能しているかについて効果測定をするため、通室する児童数を指標として設定した。	校内フリースペースの整備により、不登校児童の支援に寄与することが見込まれることから、構成する事業として妥当である。	校内フリースペースの全校整備に向けて引き続き関係課及び各小学校と緊密に連携するとともに、各校の校内フリースペースで蓄積したノウハウ等を学校間で共有することで支援力を高めていく必要がある。
02	0			
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
			協働実施済の場合のパートナー イケア・ジャパン株式会社

(3) 総合評価

※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
校内フリースペースの整備は計画どおり進行しており、令和7年度以降も継続して整備に取り組んでいく。また、校内フリースペースで児童の支援を行うまなびばサポーター(会計年度任用職員)の研修・実践報告の機会(まなびばサポーター連絡協議会)を設けることで、校内フリースペースにおける支援体制を強化していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	校内フリースペースに通室する児童数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
校内フリースペースが自分のクラスにすることが辛いと感じている児童にとっての居場所として機能しているかについて効果測定をするため、通室する児童数を指標として設定した。	目標値	—	—	—	—	40	72	
	実績値	—	—	—	—	81		
	達成率	—	—	—	—	203.0%		

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	不登校児童生徒の割合(上段:小学校、下段:中学校) ※数値は令和5年度(2023年度)、市町村立のみ							
団体名	鎌倉市	神奈川県	全国					
他市実績	2.1%	2.2%	2.1%					
	6.5%	7.0%	6.7%					

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	本市の不登校児童生徒の割合は、神奈川県内の平均よりわずかに低いものの、全国とほぼ同じ状況である。全国的な傾向と同様、本市も不登校児童生徒の割合が増加傾向であることから、継続的に不登校児童生徒支援に取り組んでいく必要がある。
--------------------------	---